

事務事業名	公営住宅修繕管理事務	所属部	建設部	所属課	業務管理課
政策名	総合計画体系 (II) 環境に配慮した安全・快適な生活環境づくり《定住環境》	所属G	住宅管理グループ	課長名	日野 誠
施策名	(04) 計画的な土地利用と市街地整備	担当者名	加納 寿伸	電話番号(内線)	0854-40-1061
基本事業名	(010) 都市機能地域の整備	予算科目	会計 款 項 目 中事業 011 410 215 015	3732	住宅管理事業

1 現状把握の部

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	③ 開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか?)
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(16年度~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(年度~年度)	公営住宅の維持管理のため修繕工事を行う事務。 (主な内容) ①入居者から修繕について連絡を受け、②現場での状況確認、③業者手配、④修繕工事、⑤修繕費用の支払い	公営住宅の管理を始めてからその後の施設の劣化により修繕は必要。

(2) トータルコスト

① 事業費の内訳(概要)	事業費	単位	21年度(決算)	22年度(決算)	23年度(決算)	24年度(計画)	25年度(計画)	全体計画
・市単費での実施(16,349千円:修繕費)	国庫支出金	千円	39,921					
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	10,940	12,166	16,341	11,793	11,562	
	事業費計(A)	千円	50,861	12,166	16,341	11,793	11,562	
② 延べ業務時間の内訳(業務の流れ等)	正規職員従事人数	人	6	6	6			
入居者からの連絡により、総合センターで対応。	延べ業務時間	時間	4,173	5,427	5,427			
	人件費計(B)	千円	15,916	21,100	21,100	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	66,777	33,266	37,441	11,793	11,562	

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	指標名	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(目標)	25年度(目標)	最終(目標)
	23年度実績(23年度に行った主な活動)	⑤ 活動指標							
	屋根、床、外壁補修、給湯器等取替え、建具補修等	ア 修繕対応団地数	箇所	46	48	48	48		
	24年度計画(24年度に計画している主な活動)	イ							
	市単費事業として随時対応。	ウ							
		エ							
		オ							

目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	指標名	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(目標)	25年度(目標)	最終(目標)
	公営住宅戸数(管理戸数全体)	⑥ 対象指標							
	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	ア 公営住宅戸数	戸	937	939	939	941		
	修繕を行うことにより、入居者の生活に支障がないようにする。	イ							
上位目的	④ 結果(どんな上位目的に結び付けるのか)	⑦ 成果指標							
	入居者の快適な生活が維持できる。	ア 苦情及び不具合対応率	%	100	100	100			
		イ 修繕戸数	戸		322	322	300		
		ウ							
		⑧ 上位成果指標							
		ア 住宅入居者の満足度	%	59.3	58.8	58.8			
		イ 修繕対応率	%		100	100	100		

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどうか変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	② この事務事業に関するこれまでの改革改善の取り組み経緯	③ この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
施設の老朽化が進み、耐用年数10年ものの給湯器などの取替え等、近年多く発生している。昭和40年代の住宅も多く、建替え、大規模修繕等再整備が必要となっている	特になし	入居者からは、現在の住宅に対する満足度は比較的高く、継続入居の意向が強い。古い住宅の入居者からの建替え希望も強い。

事務事業名	公営住宅修繕管理事務	所属部	建設部	所属課	業務管理課
-------	------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】↷ 公営住宅の快適な生活を維持するための修繕であり、はっきりと政策体系に結びついている。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市(町)が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】↷ 管理主体が市であり、妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】↷ 修繕の対象は、市内の公営住宅施設であり、その維持管理を行うことで間接的に公営住宅入居者を対象とする事業である。修繕によって快適な生活の維持を図るため適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】↷ 維持管理のための必要不可欠な修繕であるが、100%対応ができていない。今後は、点検も視野に入れ成果向上を目指す。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】↷ 廃止すれば、入居者の生活自体に影響が生じ、住宅自体にも老朽化を進めることとなる。
効率性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ↷ (具体的な手段, 事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】↷ 庁内に類似事業がない。市が管理する施設維持のための修繕であり他の手段がない。
	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 入居者の生活に直接影響のあるものであり、必要不可欠な修繕として削減の余地がない。
公平性 評価	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方の工夫で延べ業務時間を削減可能か？成果を下げずに正職員以外や委託でできないか？	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 維持修繕は、各総合センターの業務であり、本庁と各総合センターとの体制に係る。本庁で統一体制がとれば、削減の余地はある。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】↷ 公営住宅の快適な生活を維持するための修繕であり、受益機会は均等である。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	総合センター対応のため、センター間で修繕対応に娶わせが出来ていない。																					
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> (廃止・休止の場合は記入不要)			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			●	維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上			●																		
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																						
各総合センター対応のため、予算の配分にばらつきがある。今後のセンターのあり方に関わるが、予算を有効に使うためにも業務を本庁対応とすべきと考える。																						